

戊申二月 不二菘目次當坐

柳 海苔

木の下の枝少葉や露を海苔の色芦床
 海苔返て桶の小海老や放浪し凡十
 根多糸子さして芽を吹柳のふ間山
 昔柳の海苔を見とる魚屋外仙典
 出て足籠ハ事日身善好柳哉并六
 鎌よりあかちの軒端に柳か南圃人
 海苔取れ浪子ひらむや磯馴木文函
 海苔の香子昔は海苔根未梳笠霍
 正面子むらひ兼とふや形きか家五六
 花塗に器子曇水さ々如て速雅
 夕附や柳子志はむ高床舟丁江
 日暗きて多鳥の影打柳の終弄味
 朝風子海苔打かいた鷗の南各紫曉
 昔柳や何と糸をひねあて佛蓮月
 子信等よ鮎の子と見え海苔の磨不二菘

